

PAT-NO: JP02001242868A
DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 2001242868 A
TITLE: MOUNTING STRUCTURE OF MUSIC RACK
PUBN-DATE: September 7, 2001

INVENTOR-INFORMATION:

NAME	COUNTRY
SAKAI, KIMIO	N/A

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME	COUNTRY
CASIO COMPUT CO LTD	N/A

APPL-NO: JP2000050683

APPL-DATE: February 28, 2000

INT-CL (IPC): G10H001/32, G10G007/00 , A47B023/00

ABSTRACT:

PROBLEM TO BE SOLVED: To make the tilt of a music rack changeable.

SOLUTION: The front and rear surfaces of an insertion section 11 of the mounting structure of a music stand, which mounts the music stand 6 on a musical instrument body 1 by inserting the insertion section 11 of the musical stand 6 into a mounting groove 10 of the musical instrument body 1 which is a music stand support, are provided with a pair of protrusions 12 and 13 at a prescribed spacing S1 along the longitudinal direction of the mounting groove 10 and the mounting groove 10 is formed longer than the insertion section 11. The front within this mounting groove 10 is provided with a first abutment section 14 and the back thereof is provided with a second abutment section 15

in a position different from the first abutment section 14. Then, if the one protrusion 13 of the insertion section 11 is inserted to the second abutment section 15 of the mounting groove 10 correspondence thereto, the music stand 6 inclines to a prescribed angle and if the other protrusion 12 is inserted to the first abutment section 14 in correspondence thereto, the music stand 6 tilts at the angle different from the angle. As a result, the tilt of the music stand 6 may be changed according to the player's liking simply by shifting the insertion position of the insertion section 11 to the mounting groove 10.

COPYRIGHT: (C) 2001, JPO

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2001-242868

(P2001-242868A)

(43) 公開日 平成13年9月7日(2001.9.7)

(51) Int.Cl.⁷

識別記号

F I

テームト* (参考)

G 1 0 H 1/32

G 1 0 H 1/32

Z 3 B 0 5 3

G 1 0 G 7/00

G 1 0 G 7/00

Z 5 D 0 8 2

// A 4 7 B 23/00

A 4 7 B 23/00

B 5 D 3 7 8

審査請求 未請求 請求項の数5 O L (全 9 頁)

(21) 出願番号 特願2000-50683(P2000-50683)

(22) 出願日 平成12年2月28日(2000.2.28)

(71) 出願人 000001443

カシオ計算機株式会社

東京都渋谷区本町1丁目6番2号

(72) 発明者 酒井 輝美男

東京都羽村市栄町3丁目2番1号 カシオ
計算機株式会社羽村技術センター内

(74) 代理人 100073221

弁理士 花輪 義男

Fターム(参考) 3B053 TB05 TB10 UA02

5D082 DD05

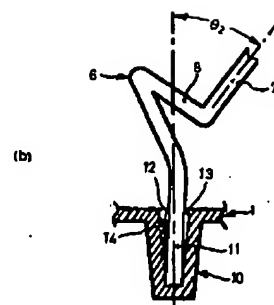
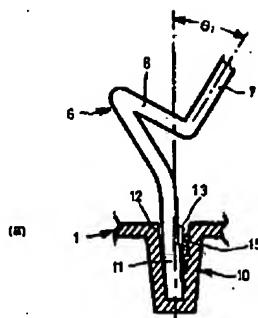
5D378 SA17 SA19

(54) 【発明の名称】 譜面立ての取付構造

(57) 【要約】

【課題】 譜面立ての傾きを変えられるようにする。

【解決手段】 譜面立て支持体である楽器本体1の装着溝10に譜面立て6の挿入部11を差し込んで、楽器本体1上に譜面立て6を取り付ける譜面立ての取付構造において、挿入部11の表裏面に一対の突起部12、13を装着溝10の長手方向に沿って所定間隔S1で設け、かつ装着溝10を挿入部11よりも長く形成し、この装着溝10内の前面に第1当接部14を設け、後面に第2当接部15を第1当接部14と異なる位置に設けた。従って、装着溝10の第2当接部15に挿入部11の一方の突起部13を対応させて差し込むと、譜面立て6が所定角度に傾き、また第1当接部14に他方の突起部12を対応させて差し込むと、譜面立て6が上記と異なる角度で傾く。これにより、装着溝10に対する挿入部11の差し込み位置をずらすだけで、演奏者の好みに応じて譜面立て6の傾きを変えることができる。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 譜面立て支持体に装着溝を設け、この装着溝に譜面立ての挿入部を差し込むことにより、前記譜面立て支持体に前記譜面立てを取り付ける譜面立ての取付構造において、

前記挿入部には前記装着溝の内面に対向する傾き規制部が前記装着溝の長手方向に沿って所定間隔で設けられ、前記装着溝は前記挿入部よりも長く形成され、この装着溝内の対向する内面には前記傾き規制部とほぼ同じ間隔で当接部が設けられていることを特徴とする譜面立ての取付構造。

【請求項2】 前記傾き規制部は、前記挿入部の表裏両面に対応して形成された一対の突起部からなり、前記当接部は、前記装着溝内の一方の内面に前記突起部とほぼ同じ間隔で形成された第1当接部と、前記装着溝内の他方の内面に前記突起部とほぼ同じ間隔で、かつ前記第1当接部に対する前記長手方向の異なる位置に形成された第2当接部とからなることを特徴とする請求項1に記載の譜面立ての取付構造。

【請求項3】 前記傾き規制部は、前記挿入部の表裏面に対して傾斜した傾斜部からなり、前記当接部は、前記装着溝内の対向する内面に前記傾斜部とほぼ同じ間隔で、かつ互いに対向して形成された一対の凸部からなることを特徴とする請求項1に記載の譜面立ての取付構造。

【請求項4】 譜面立て支持体に装着溝を設け、この装着溝に譜面立ての挿入部を差し込むことにより、前記譜面立て支持体に前記譜面立てを取り付ける譜面立ての取付構造において、前記挿入部の前面には係合突起が設けられ、前記装着溝における前記挿入部の前面に対向する内面には、前記係合突起に係脱可能に係合する弾性フック部が設けられていることを特徴とする譜面立ての取付構造。

【請求項5】 前記挿入部には前記装着溝の内面に対向する傾き規制部が前記装着溝の長手方向に沿って所定間隔で設けられ、前記装着溝は前記挿入部よりも長く形成され、この装着溝内の対向する内面には前記傾き規制部とほぼ同じ間隔で当接部が設けられていることを特徴とする請求項4に記載の譜面立ての取付構造。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】この発明は、譜面立ての取付構造に関する。

【0002】

【従来の技術】従来、鍵盤楽器においては、楽器本体の上面に設けられた装着溝に譜面立ての下端部を差し込むことにより、楽器本体上に譜面立てを取り付ける譜面立て付き鍵盤楽器がある。図11～図13はその一例を示した図である。この鍵盤楽器は、楽器本体1の上面における手前側に鍵盤2が設けられ、その後側の中間部分に

各種のスイッチやランプなどを備えた操作部3が設けられ、その両側にスピーカ部4がそれぞれ設けられているほか、譜面立て支持体である楽器本体1の上面における後端部に装着溝5が操作部3に沿って設けられ、この装着溝5に図12および図13に示すように譜面立て6が装着されるように構成されている。譜面立て6は、ほぼ平板状の譜面立て本体部7の下部に楽譜（図示せず）を載せる譜面載置部8が前方に突出して形成され、この譜面載置部8の前端部から斜め後方に向けて図13に示すようにほぼ逆「く」字状に延出された挿入部9が形成され、この挿入部9の下部を楽器本体1の装着溝5に差し込むことにより、図12に示すように、楽器本体1上に譜面立て本体7が所定角度に傾いて取り付けられるように構成されている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、このような鍵盤楽器における譜面立ての取付構造では、譜面立て支持体である楽器本体1の装着溝5に譜面立て6の挿入部9を差し込むことにより、譜面立て6を楽器本体1上に所定角度で傾けて取り付けだけの構造であるから、譜面立て6の傾き角度が常に一定となり、演奏者の好みに応じて譜面立て6の傾きを変えることができないという不都合がある。また、この譜面立ての取付構造では、譜面立て6に載置された楽譜のページの折り目を押し広げたり、あるいは折り目を付けたりするために、譜面立て本体7が前面側から後方に向けて強く押されると、その押圧力によって譜面立て6の挿入部9が楽器本体1の装着溝5から抜けて、譜面立て6が譜面立て支持体である楽器本体1から外れてしまうという問題もある。

【0004】この発明の課題は、簡単な操作で譜面立ての傾きを変えることができるようにすることである。また、この発明の他の課題は、譜面立てを後方に向けて押ししても、譜面立てが外れないようにすることである。

【0005】

【課題を解決するための手段】請求項1に記載の発明は、譜面立て支持体に装着溝を設け、この装着溝に譜面立ての挿入部を差し込むことにより、前記譜面立て支持体に前記譜面立てを取り付ける譜面立ての取付構造において、前記挿入部には前記装着溝の内面に対向する傾き規制部が前記装着溝の長手方向に沿って所定間隔で設けられ、前記装着溝は前記挿入部よりも長く形成され、この装着溝内の対向する内面には前記傾き規制部とほぼ同じ間隔で当接部が設けられていることを特徴とする。この発明によれば、譜面立て支持体の装着溝に譜面立ての挿入部を差し込む際、装着溝の当接部に挿入部の傾き規制部を対応させて差し込むと、装着溝の当接部と挿入部の傾き規制部とにより譜面立てを所定角度に傾けることができ、また装着溝に対する挿入部の差し込み位置をその長手方向にずらして、装着溝の前回当接した部分と異

なる箇所に挿入部の傾き規制部を対応させて差し込むと、譜面立てを上記と異なる角度で傾けることができ、これにより装着溝に対する挿入部の差し込み位置をずらすだけの簡単な操作で、演奏者の好みに応じて譜面立ての傾きを変えることができる。

【0006】この場合、請求項2に記載のごとく、前記傾き規制部は、前記挿入部の表裏両面に対応して形成された一対の突起部からなり、前記当接部は、前記装着溝内の一方の内面に前記突起部とほぼ同じ間隔で形成された第1当接部と、前記装着溝内の他方の内面に前記突起部とほぼ同じ間隔で、かつ前記第1当接部に対する前記長手方向の異なる位置に形成された第2当接部とからなることにより、装着溝に挿入部を差し込む際、装着溝の第1当接部に挿入部の一方側の突起部を対応させて差し込むと、この第1当接部と一方側の突起部とにより譜面立てを所定角度に傾けることができ、また装着溝に対する挿入部の差し込み位置をその長手方向にずらして、装着溝の第2当接部に挿入部の他方側の突起部を対応させて差し込むと、この第2当接部と他方側の突起部とにより譜面立てを上記と異なる角度に傾けることができ、これにより譜面立ての傾きを変えることができる。

【0007】また、請求項3に記載のごとく、前記傾き規制部は前記挿入部の表裏面に対して傾斜した傾斜部からなり、前記当接部は、前記装着溝内の対向する内面に前記傾斜部とほぼ同じ間隔で、かつ互いに対向して形成された一対の凸部からなることにより、装着溝に挿入部を差し込む際、装着溝の一対の凸部の間に挿入部の傾斜部を対応させて差し込むと、一対の凸部と傾斜部とにより譜面立てを所定角度に傾けることができ、また装着溝に対する挿入部の差し込み位置をその長手方向にずらして、装着溝の一対の凸部に挿入部の傾斜部以外の箇所を対応させて差し込むと、一対の凸部と傾斜部以外の箇所とにより譜面立てを上記と異なる角度に傾けることができ、これにより譜面立ての傾きを変えることができる。

【0008】また、請求項4に記載の発明は、譜面立て支持体に装着溝を設け、この装着溝に譜面立ての挿入部を差し込むことにより、前記譜面立て支持体に前記譜面立てを取り付ける譜面立ての取付構造において、前記挿入部の前面には係合突起が設けられ、前記装着溝における前記挿入部の前面に対向する内面には、前記係合突起が係脱可能に係合する弾性フック部が設けられていることを特徴とする。この発明によれば、譜面立て支持体の装着溝に譜面立ての挿入部を挿入すると、挿入部の係合突起が装着溝の弾性フック部に係合するので、譜面立てが前面側から後方に向けて押されると、挿入部が係合突起部を弾性フック部に対して係合する方向に押すことになり、このため譜面立てを前面側から後方に向けて押しても、譜面立てが譜面立て支持体から外れることがなく、また譜面立てを後面側から前方に向けて押すと、挿入部が係合突起と弾性フック部とを相互に離脱させる方

向に付勢することになり、これにより係合突起に対する弾性フック部の係合を解除することができ、この状態で譜面立てを譜面立て支持体から簡単に取り外すことができる。

【0009】この場合、請求項5に記載のごとく、前記挿入部には前記装着溝の内面に対向する傾き規制部が前記装着溝の長手方向に沿って所定間隔で設けられ、前記装着溝は前記挿入部よりも長く形成され、この装着溝内の対向する内面には前記傾き規制部とほぼ同じ間隔で当接部が設けられていれば、請求項4に記載の発明と同様の作用効果があるほか、譜面立て支持体の装着溝に譜面立ての挿入部を差し込む際、装着溝の当接部に挿入部の傾き規制部を対応させて差し込むことにより、譜面立てを所定角度に傾けることができ、また装着溝に対する挿入部の差し込み位置をその長手方向にずらして、装着溝の前回当接した部分と異なる箇所に挿入部の傾き規制部を対応させて差し込むことにより、譜面立てを上記と異なる角度に傾けることができるので、請求項1に記載の発明と同様、演奏者の好みに応じて譜面立ての傾きを変えることができる。

【0010】

【発明の実施の形態】〔第1実施形態〕以下、図1～図4を参照して、この発明の譜面立ての取付構造を鍵盤楽器に適用した第1実施形態について説明する。なお、図11～図13に示された従来例と同一部分には同一符号を付して説明する。この譜面立ての取付構造は、譜面立て支持体である楽器本体1の装着溝10および譜面立て6の挿入部11が従来例と異なり、これ以外は従来例とほぼ同じ構造になっている。すなわち、譜面立て6の挿入部11の表裏両面には、図2(a)および図2(b)に示すように、一対の突起部12、13が互いに対向した状態で、かつ装着溝10の長手方向に沿って所定間隔S1で形成されている。これら各一対の突起部12、13は、装着溝10の長手方向と直交する上下方向に沿って細長く形成されている。

【0011】これら各一対の突起部12、13のうち、一方の突起部12は、図2(b)に示すように、挿入部11の前面(同図では左側面)に前方に向けて突出して形成されており、他方の突起部13は、挿入部11の後面(同図では右側面)に後方に向けて突出して形成されている。また、これら一対の突起部12、13は、その上部が前後方向に大きく突出し、下部側に向かうに従って次第に小さく突出する傾斜部に形成されている。この場合、一対の突起部12、13は、図2(b)に示すように、前面側(同図では左面側)の突起部12における前方への突出長さ(挿入部11の前面に対する傾斜角度)が後面側(同図では右面側)の突起部13における後方への突出長さ(挿入部11の後面に対する傾斜角度)よりも小さく形成され、これにより一対の突起部12、13の断面形状が非対称な形状になっている。な

お、これら一対の突起部12、13は、必ずしも非対称な形状である必要はなく、対称な形状であっても良い。

【0012】一方、楽器本体1の装着溝10は、従来例と同様、楽器本体1の上面における後端部に操作部3に沿って設けられ、その長さが図3(a)に示すように譜面立て6の挿入部11よりも後述する長さだけ長く形成されている。また、この装着溝10は、図3(b)に示すように、その底部側が狭く上部側が広くなるように、互いに対向する内面が傾斜面に形成されている。この装着溝10の内面には、第1当接部14と第2当接部15とが譜面立て6の突起部12、13と同じ間隔S1で、かつ互いに位置がずれた状態で形成されている。すなわち、第1当接部14は、楽器本体1の前側(図3(b)では左側)に位置する装着溝10の前側の内面に形成されており、第2当接部15は、楽器本体1の後側(図3(b)では右側)に位置する装着溝10の後側の内面に、第1当接部14の幅(装着溝10の長手方向における長さ)だけ、装着溝10の長手方向に位置がずれて形成されている。これにより、装着溝10は、第1、第2当接部14、15の位置ずれした長さだけ譜面立て6の挿入部11よりも長く形成されている。また、第1、第2当接部14、15は、突起部12、13と同様、その上部が前後方向に大きく突出し、下部側に向かうに従って次第に小さく突出する傾斜部に形成されており、これらの断面形状は、図3(b)に示すように、対称な形状であるが、非対称な形状であっても良い。

【0013】このような鍵盤楽器における譜面立ての取付構造では、譜面立て支持体である楽器本体1の装着溝10に譜面立て6の挿入部11を差し込む際、図4(a)に示すように、装着溝10内の後側の第2当接部15に挿入部11の後面側の突起部13を対応させると、第2当接部15と後面側の突起部13との相互の傾斜により挿入部11が所定角度で保持され、これにより譜面立て本体部7を所定角度($\theta 1$)に傾けることができる。また、装着溝10に対する挿入部11の差し込み位置をその長手方向にずらして、図4(b)に示すように、装着溝10内の前側の第1当接部14に挿入部11の前面側の突起部12を対応させると、第1当接部14と前面側の突起部12との相互の傾斜面により挿入部11が上記と異なる角度で保持され、これにより図1に2点鎖線で示すように譜面立て本体部7を上記と異なる角度($\theta 2$)、つまり譜面立て本体部7を図1に実線で示された状態よりも更に後方に傾けることができる。このように、楽器本体1の装着溝10に対する譜面立て6の挿入部11の差し込み位置をずらすだけの簡単な操作で、図1に示すように、演奏者の好みに応じて譜面立て6の傾きを変えることができる。

【0014】[第2実施形態] 次に、図5～図7を参照して、この発明の譜面立ての取付構造を鍵盤楽器に適用した第2実施形態について説明する。この場合には、図

1～図4に示された第1実施形態と同一部分に同一符号を付して説明する。この譜面立ての取付構造は、譜面立て支持体である楽器本体1の装着溝20および譜面立て6の挿入部21が第1実施形態と異なり、これ以外は第1実施形態とほぼ同じ構造になっている。すなわち、譜面立て6の挿入部21には、図5(a)に示すように、傾斜部22が装着溝20の長手方向に沿って所定間隔S2で形成されている。これら傾斜部22は、ほぼ四角形状の領域で、図5(b)に示すように、挿入部21の表裏面(同図では左右面)に対して傾斜した状態、つまり挿入部21の厚さとはほぼ同じ厚さで、かつその下部側が挿入部21の前面側に向けて突出するように傾斜した状態で形成されている。

【0015】楽器本体1の装着溝20は、第1実施形態と同様、楽器本体1の上面における後端部に譜面立て6の挿入部21よりも後述する長さだけ長く形成されている。また、この装着溝20も、その底部側が狭く上部側が広くなるように、互いに対向する内面が傾斜面に形成されている。この装着溝20の内面には、図6に示すように、一対の凸部23、24が譜面立て6の傾斜部22と同じ間隔S2で互いに対向した状態で形成されている。このため、装着溝20は、譜面立て6の傾斜部22の幅(装着溝20の長手方向の長さ)だけ、譜面立て6の挿入部11よりも長く形成されている。この場合にも、一対の凸部23、24は、第1実施形態の第1、第2当接部14、15の形状と同様、その上部が前後方向に大きく突出し、下部側に向かうに従って次第に小さく突出する傾斜面に形成されており、これらの断面形状も、図7(a)および図7(b)に示すように、対称な形状であるが、非対称な形状であっても良い。

【0016】このような鍵盤楽器における譜面立ての取付構造では、譜面立て支持体である楽器本体1の装着溝20に譜面立て6の挿入部21を差し込む際、図7(a)に示すように、装着溝20の内面に互いに対向して設けられた一対の凸部23、24の間に挿入部21の傾斜部22を対応させて差し込むと、一対の凸部23、24と傾斜部22との相互の傾斜により挿入部21が所定角度で保持されるので、譜面立て本体部7を所定角度($\theta 3$)に傾けることができる。また、装着溝20に対する挿入部21の差し込み位置をその長手方向にずらして、図7(b)に示すように、装着溝20の一対の凸部23、24の間に挿入部21の傾斜部22が対応しないように傾斜部22以外の箇所を対応させて差し込むと、一対の凸部23、24と傾斜部22以外の箇所との相互の傾斜により挿入部21が上記と異なる角度で保持されるので、譜面立て6を上記と異なる角度($\theta 4$)、つまり図7(a)に示された状態よりも譜面立て本体部7を更に後方に傾けることができる。これにより、第1実施形態と同様、楽器本体1の装着溝20に対する譜面立て6の挿入部21の差し込み位置をずらすだけの簡単な操

作で、演奏者の好みに応じて譜面立て6の傾きを変えることができる。

【0017】[第3実施形態]次に、図8～図10を参照して、この発明の譜面立ての取付構造を鍵盤楽器に適用した第3実施形態について説明する。この場合には、図11～図13に示された従来例と同一部分に同一符号を付して説明する。この譜面立ての取付構造は、楽譜面立て支持体である器本体1の装着溝5内に弾性フック部30を形成し、譜面立て6の挿入部9に係合突起31を形成した構造で、これ以外は従来例とほぼ同じ構造になっている。この場合、譜面立て6の挿入部9における表裏面の所定箇所には、図8に示すように、装着溝5内の対向する内面に当接する一对の傾斜凸部32、33が互いに対応して形成されている。これら傾斜凸部32、33のうち、挿入部9における前面側（同図では左面側）の傾斜凸部32の下部には、係合突起31が前方に突出して形成されている。このため、係合突起31の上端部には、係合用の段差部分が形成されている。

【0018】装着溝5内の弾性フック部30は、図9に示すように、装着溝5内における挿入部9の係合突起31に対応する前面（同図では左側面）にくり抜きにより形成されている。すなわち、この弾性フック部30は、装着溝5内における前面に形成された開口部34内に前後方向（同図では左右方向）に弾性変形する弾性変形部35が開口部34内の上部から中間部に亘って形成され、この弾性変形部35の下側に位置する開口部34内に係合突起31が挿入し、この挿入された係合突起31の上部の段差部分を弾性変形部35が係脱可能に係止するように構成されている。

【0019】このような鍵盤楽器における譜面立ての取付構造では、楽器本体1上に譜面立て6を取り付けるときに、楽器本体1の装着溝5に譜面立て6の挿入部9を挿入すると、図10(a)に示すように、挿入部9の係合突起31が装着溝5内の弾性フック部30の弾性変形部35を前側に向けて押圧するように当接し、これにより係合突起31が弾性変形部35を前側に向けて弾性変形させて乗り越え、その下側に位置する開口部34内に係合突起31が挿入して弾性変形部35により係止され、これにより楽器本体1上に譜面立て6が取り付けられる。この場合、係合突起31が弾性変形部35を乗り越えるときには、係合突起31が弾性変形部35を押圧して弾性変形させながら滑らかに下側に移動して弾性フック部30の開口部34内に係合するので、確実かつ良好に係合突起31を弾性フック部30に係合させることができる。

【0020】このように、譜面立て6が楽器本体1上に取り付けられた状態では、譜面載置部8に載置された楽譜（図示せず）を譜面立て本体7に押し付けるように、譜面立て本体7が前面側から後方に向けて押されると、図10(a)に示すように、挿入部9の後面側の傾斜凸

部33が装着溝5内の後側の内面に押し付けられるので、係合突起31が弾性フック部30の弾性変形部35に対して係合する方向に押されることになり、このため譜面立て本体7を前面側から後方に向けて押しても、係合突起31が弾性フック部30から離脱することがないので、譜面立て6が楽器本体1から外れることがない。また、譜面立て6を楽器本体1から取り外す場合には、譜面立て6を後面側から前方に向けて押すと、挿入部9の前面側の傾斜凸部32が装着溝5内の弾性フック部30の弾性変形部35に押し付けられるので、この弾性変形部35が前側に向けて弾性変形するとともに、係合突起31が弾性フック部30から離れる方向つまり後方に向けて付勢されることになり、これにより係合突起31に対する弾性変形部35の係合を解除することができ、この状態で譜面立て6を楽器本体1から簡単に取り外すことができる。

【0021】なお、上記第3実施形態では、楽器本体1の装着溝5に弾性フック部30のみを設け、譜面立て6の挿入部9に係合突起31および傾斜凸部32、33を設けた場合について述べたが、これに限らず、例えば、第1実施形態のように第1、第2当接部14、15が設けられた装着溝10に弾性フック部30を設け、かつ一对の突起部12、13が設けられた挿入部11に係合突起31および傾斜凸部32、33を設けた構造でも良く、また第2実施形態のように一对の凸部23、24が設けられた装着溝20に弾性フック部30を設け、かつ傾斜部22が設けられた挿入部21に係合突起31および傾斜凸部32、33を設けた構造でも良い。いずれの場合にも、装着溝10、20に対する挿入部11、21の差し込み位置が長手方向にずれることを考慮して、弾性フック部30をそのずれ量に応じて長手方向に長く形成するか、あるいは係合突起31が位置ずれする箇所ごとに弾性フック部30を形成すれば良い。このようにすれば、譜面立て本体7を前面側から後方に向けて押圧しても、譜面立て6が楽器本体1から外れないようにすることができるほか、第1、第2実施形態のように、演奏者の好みに応じて譜面立て6の傾きを変えることができる。

【0022】なおまた、上記第1～第3実施形態では、鍵盤楽器に適用した場合について述べたが、これに限らず、譜面立て6を必要とする他の楽器にも適用できるほか、必ずしも楽器に限らず、譜面立て6を必要とする楽器以外のものにも広く適用することができる。

【0023】

【発明の効果】以上説明したように、請求項1に記載の発明によれば、譜面立ての挿入部に、譜面立て支持体の装着溝の内面に対向する傾き規制部を、装着溝の長手方向に沿って所定間隔で設け、装着溝を挿入部よりも長く形成し、この装着溝内の対向する内面に傾き規制部とほぼ同じ間隔で当接部を設けたことにより、譜面立て支持

体の装着溝に譜面立ての挿入部を差し込む際、装着溝の当接部に挿入部の傾き規制部を対応させて差し込むと、装着溝の当接部と挿入部の傾き規制部とにより譜面立てを所定角度に傾けることができ、また装着溝に対する挿入部の差し込み位置をその長手方向にずらして、装着溝の前回当接した部分と異なる箇所に挿入部の傾き規制部を対応させて差し込むと、譜面立てを上記と異なる角度で傾けることができ、これにより装着溝に対する挿入部の差し込み位置をずらすだけの簡単な操作で、演奏者の好みに応じて譜面立ての傾きを変えることができる。

【0024】この場合、傾き規制部が挿入部の表裏両面に対応して形成された一対の突起部からなり、当接部が、装着溝内の一方の内面に突起部とほぼ同じ間隔で形成された第1当接部と、装着溝内の他方の内面に突起部とほぼ同じ間隔で、かつ第1当接部に対する長手方向の異なる位置に形成された第2当接部とからなることにより、装着溝に挿入部を差し込む際、装着溝の第1当接部に挿入部の一方側の突起部を対応させて差し込むと、この第1当接部と一方側の突起部とにより譜面立てを所定角度に傾けることができ、また装着溝に対する挿入部の差し込み位置をその長手方向にずらして、装着溝の第2当接部に挿入部の他方側の突起部を対応させて差し込むと、この第2当接部と他方側の突起部とにより譜面立てを上記と異なる角度で傾けることができる。

【0025】また、傾き規制部が挿入部の表裏面に対して傾斜した傾斜部からなり、当接部が、装着溝内の対向する内面に傾斜部とほぼ同じ間隔で、かつ互いに対向して形成された一対の凸部からなることにより、装着溝に挿入部を差し込む際、装着溝の一対の凸部の間に挿入部の傾斜部を対応させて差し込むと、一対の凸部と傾斜部とにより譜面立てを所定角度に傾けることができ、また装着溝に対する挿入部の差し込み位置をその長手方向にずらして、装着溝の一対の凸部に挿入部の傾斜部以外の箇所を対応させて差し込むと、一対の凸部と傾斜部以外の箇所とにより譜面立てを上記と異なる角度に傾けることができる。

【0026】また、請求項4に記載の発明によれば、譜面立て支持体の装着溝に譜面立ての挿入部を挿入すると、挿入部の係合突起が装着溝の弾性フック部に係合するので、譜面立てが前面側から後方に向けて押されると、挿入部が係合突起部を弾性フック部に対して係合する方向に押すことになり、このため譜面立てを前面側から後方に向けて押しても、譜面立てが譜面立て支持体から外れることがなく、また譜面立てを後面側から前方に向けて押すと、挿入部が係合突起と弾性フック部とを相互に離脱させる方向に付勢することになり、これにより係合突起に対する弾性フック部の係合を解除することができ、この状態で譜面立てを譜面立て支持体から簡単に取り外すことができる。

【0027】この場合、挿入部には装着溝の内面对向

する傾き規制部が装着溝の長手方向に沿って所定間隔で設けられ、装着溝が挿入部よりも長く形成され、この装着溝内の対向する内面には傾き規制部とほぼ同じ間隔で当接部が設けられていることにより、請求項4に記載の発明と同様の作用効果があるほか、譜面立て支持体の装着溝に譜面立ての挿入部を差し込む際、装着溝の当接部に挿入部の傾き規制部を対応させて差し込むことにより、譜面立てを所定角度に傾けることができ、また装着溝に対する挿入部の差し込み位置をその長手方向にずらして、装着溝の前回当接した部分と異なる箇所に挿入部の傾き規制部を対応させて差し込むことにより、譜面立てを上記と異なる角度に傾けることができ、これにより請求項1に記載の発明と同様、演奏者の好みに応じて譜面立ての傾きを変えることができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】この発明の譜面立ての取付構造を鍵盤楽器に適用した第1実施形態を示した一部破断した側面図。

【図2】図1の譜面立ての挿入部を示し、(a)はその一部省略した正面図、(b)はその拡大側面図。

【図3】図1の楽器本体の装着溝を示し、(a)はその一部省略した平面図、(b)はそのA-A矢視における拡大断面図。

【図4】図2の挿入部を図3の装着溝に差し込んだ状態の要部を示し、(a)は挿入部の突起部を装着溝の第2当接部に対応させて挿入した状態の拡大断面図、(b)は挿入部の突起部を装着溝の第1当接部に対応させて挿入した状態の拡大断面図。

【図5】この発明の譜面立ての取付構造を鍵盤楽器に適用した第2実施形態における譜面立ての挿入部を示し、(a)はその一部省略した正面図、(b)はその拡大側面図。

【図6】図5の譜面立ての挿入部が挿入する楽器本体の装着溝を示した一部省略した平面図。

【図7】図5の挿入部を図6の装着溝に差し込んだ状態の要部を示し、(a)は挿入部の傾斜部を装着溝の凸部に対応させて挿入した状態の拡大断面図、(b)は挿入部の傾斜部以外を装着溝の凸部に対応させて挿入した状態の拡大断面図。

【図8】この発明の譜面立ての取付構造を鍵盤楽器に適用した第3実施形態における譜面立ての挿入部を示した拡大側面図。

【図9】図8の譜面立ての挿入部が挿入する楽器本体の装着溝を示した拡大断面図。

【図10】図8の譜面立ての挿入部を図9の装着溝に差し込んだ状態の要部を示し、(a)はその状態で譜面立てを前面側から後方に向けて押した状態の拡大断面図、(b)はその状態で譜面立てを後面側から前方に向けて押した状態の拡大断面図。

【図11】従来の譜面立ての取付構造を適用した鍵盤楽器の平面図。

11

12

【図12】図11の楽器本体に従来の譜面立てを取り付けた状態を示した一部破断した拡大側面図。

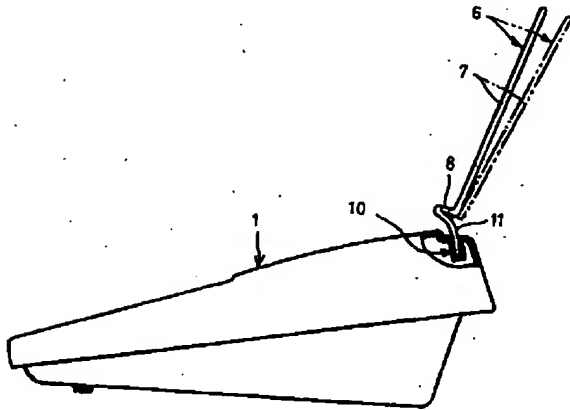
【図13】図12の要部の拡大断面図。

【符号の説明】

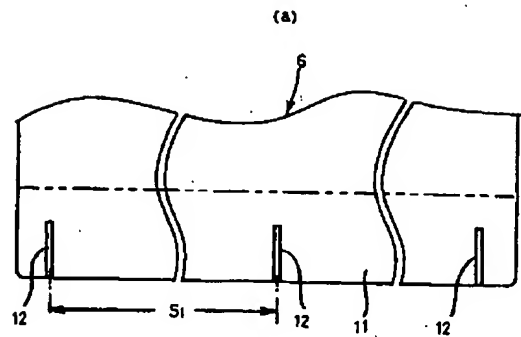
1 楽器本体
5、10、20 装着溝
6 譜面立て
9、11、21 挿入部

12、13 突起部
14 第1当接部
15 第2当接部
22 傾斜部
23、24 凸部
30 弾性フック部
31 係合突起

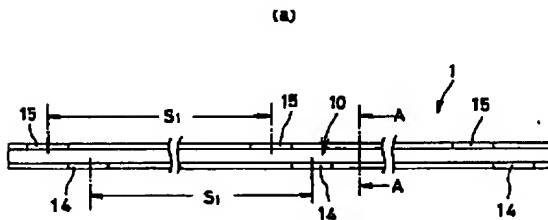
【図1】



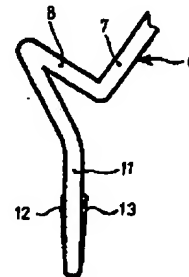
【図2】



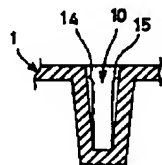
【図3】



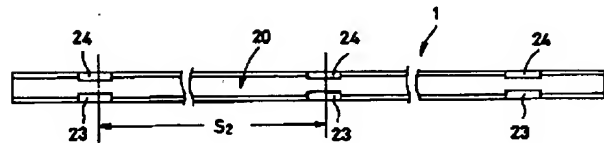
(b)



(b)

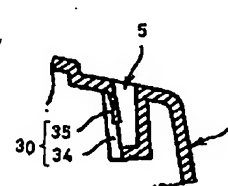
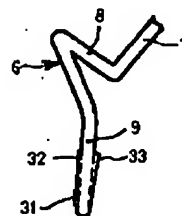


【図6】

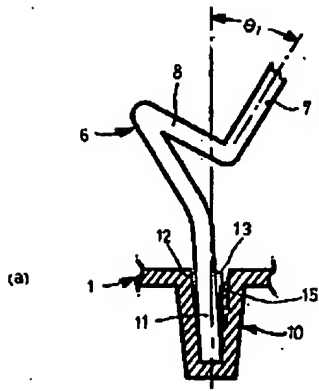


【図8】

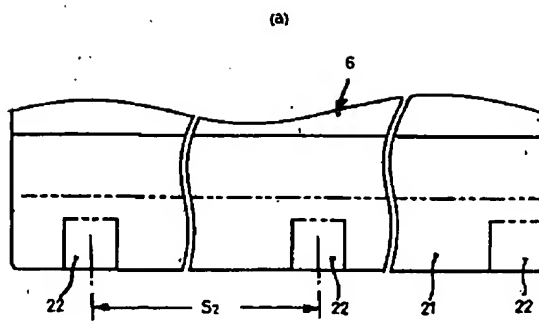
【図9】



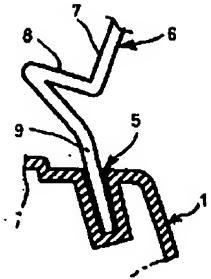
【図4】



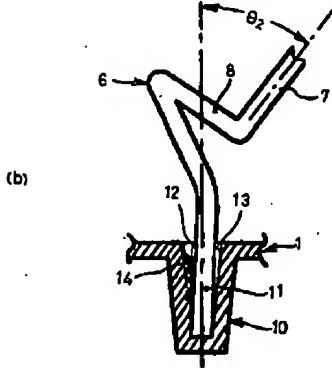
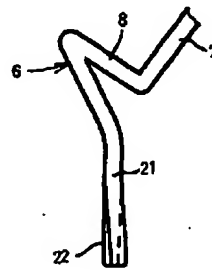
【図5】



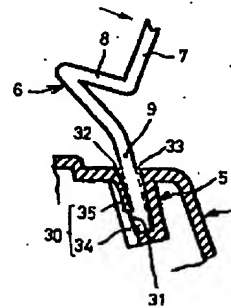
【図13】



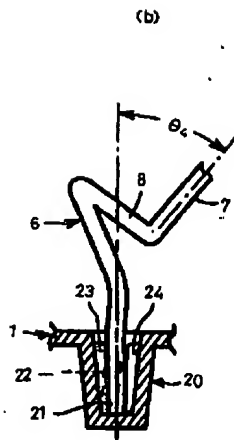
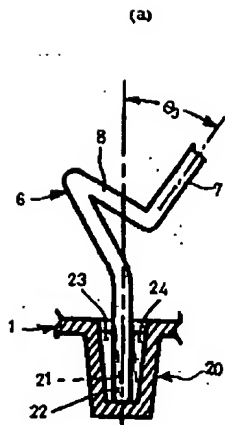
(b)



【図10】

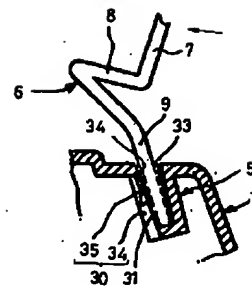


【図7】

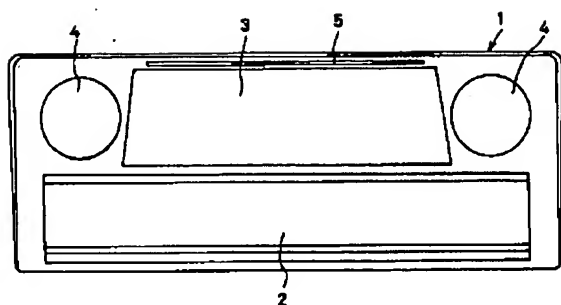


(a)

(b)



【図11】



【図12】

